



すべてに ^{やさ} 優しく

いつまでも ^{ゆとり} 悠 がある

やすらぎの ^{ばしょ} 邑 でありたい

2026

春 号

「今日も楽しかった」と

言っていただけのように…

令和8年度指針

関ヶ原 指針

社会福祉法人 杉和会 理事長 若山 宏

物価高騰と人材確保が難しい中であっても、法人理念である『すべてにやさしく いつまでもゆとりある やすさぎのばしよでありたい』と『今日一日楽しかったよ』の理念は不変なものとして役員一同で邁進していきます。その様な中で令和8年度は三施設共に大きな変革期となる事に留意した体制強化をしていく事を以下に明示します。本部施設では米原市において、近年地域密着型デイサービスが多く事業開始をした影響もあり、米原市からの需要が少なくなつた事を関ヶ原町とも協議した結果『地域密着型通所介護』への移行を決定しました。但し、ショートステイや入居に対する米原市、長浜市からの利用が多い中、特別養護老人ホーム『優・悠・邑』の存在を広く知って頂く広報活動や営業活動に力を入れると共に、より信頼される存在になるように努めて行きます。『優・悠・邑 和合』においては大垣市を中心とした皆様から従来型多床室に対する信頼も出来た中、職員のスキルも上がってきたため、体制を夜勤5人体制から4人体制にする事によって、昼間のケアの充実を図っていきます。盲養護老人ホーム 優・悠・邑 和(なごみ)の施設においては30床から40床に定員枠を拡げる事によって7年度までの1棟での活用から2棟での体制になる事を、県内において唯一の盲養護老人ホームである存在をアピールして需要を増やし、令和9年度には50床定員体制出来る布石とします。その為には2棟体制での職員の連携の充実に努めていく必要があります。総括として、今まで以上に地域から信頼される存在になる為に邁進して参ります。

トランスファー委員会 委員長 伊藤 丘彦

職員全員がしっかりとトランスファーテクニクを活用する事によって、入居者・利用者様の負担を軽減するとともに、職員の負担も軽減していきたいと思えます。また、痣や傷ができるような事が無いよう、適切な介助の方法や使用道具等も状況に合わせて検討していきたいと思えます。

感染症・褥瘡委員会 委員長 早瀬 友貴

感染症対策として職員一人一人が自身の健康を維持し、感染症を外から施設に持ち込まないよう徹底、感染症を広げないよう換気や環境整備等にも取り組みます。また、褥瘡をつくらない為に、食事が摂れていないのであれば管理栄養士に相談、自力で寝返りができず褥瘡のリスクがあるのなら、他の職員と連携し褥瘡をつくらぬよう予防、また、治りが遅い場合は看護師・管理栄養士とも連携し早期改善に務めます。

入浴委員会 委員長 池田 由紀

今年度も、入居者様・利用者様に気持ち良く入浴していただける環境作りに取り組んでいきたいと思えます。入浴時間を楽しんでいただくために、季節を感じるような脱衣所などの環境整備等をおこなう事で、安心・安全に快適な入浴の時

間を提供していきたいと思えます。また、乾燥などの肌トラブルに気を付けていきたいと思えます。

行事委員会 委員長 グエン チョンカン

当委員会では、利用者様が季節を感じながら楽しく充実した生活を送れるように支援することを目的とします。日本の伝統行事や季節行事を取り入れ、利用者同士や職員と交流を深める機会を作ります。また、安全面や健康状態に配慮しながら安心して参加できる行事の計画 実施をしていきます。

食事委員会 委員長 村瀬 智美

今年の課題は、「食事の時間を楽しく、安心・安全に召し上がっていただく」です。月一回のバイキング料理の実施はもちろんの事、普段の食事では食前体操の実施や食事姿勢・咀嚼・嚥下にも目を配り、声掛けなどを通して安全で楽しい雰囲気作りをしていきます。また、大釜を使った筍ご飯や味噌汁作り・芋煮会などのイベントも行い、食を通して楽しい思い出を作っていただくように尽力していきます。

排泄委員会 委員長 笹野 忠

利用者様一人ひとりの排泄状況や身体状況を把握し、適切な排泄ケアの提供に努めます。定期的な排泄状況の見直しや職員間の情報共有を行

い、尊厳を守ったケアと自立支援を進めます。また、研修や事例検討を通して職員の知識と技術の向上を図り、安心して生活できる環境づくりに努めます。

和合 指針

虐待防止対策委員会

委員長 北島 賢治

日常のケアの中で不適切なケアが行われていないか？また、不適切なケアが当たり前になっていないかを見直していきます。他人に注意することが出来る人もいれば、なかなか出来ない人もいます。また組織内の立場によっても状況が変わってくると思います。虐待防止だけに取り組みではなく、施設全体が風通しの良い環境を作り、入居者様と職員にとっても楽しい施設にしていきたい。

身体拘束対策委員会

委員長 坪井 寿夫

入居者様の尊厳と安全を守るため、日々のケアの中で「どうすれば身体拘束に頼らず支援できるか」を常に考え、代替手段の工夫と環境づくりを進めながら、信頼関係を大切にした関わりを追求します。また、職員一人ひとりが学びを深める機会を継続的に設け、適切なケアの実践力を高めることで、身体拘束廃止への取り組みをより確かなものにしていきます。

余暇・行事委員会

委員長 藤本 二三子

利用者様の希望に寄り添った年間計画のもと、「ワクワク」「ドキドキ」の感情が働き、生きる活力となり、楽しみのある生活の中で過ごしていただけるように余暇行事活動を行って参ります。季節を感じられる外出や社会見学、地域のイベントへの参加でリフレッシュしていただき、新たな情報に触れる交流を積極的に行って参ります。

生活向上・接遇委員会

委員長 坪井 寿夫

入居者様が日々の生活をより安心して過ごせるよう、食事・入浴・排泄を一体的に捉え、心地よい関わりと丁寧な接遇を重視した支援を進めます。職員全員が共通の視点を持ち、環境整備や声かけの工夫を積み重ねることで、生活の質を高め、笑顔のある暮らしを支える取り組みを継続していきます。

リスク対策委員会

委員長 岩田 康嗣

事故をゼロにすることは難しいことですが、気づきを増やすことが「質の高さ」に繋がります。ヒヤリ・ハットをきちんと分析していくことで、事故のリスクは軽減できることを研修など日々の活動を通じ、各職員にしっかりと理解してもらうようにしていきます。

感染症対策委員会

委員長 鹿野 里枝子

昨年度は感染症によるクラスターが起きず、安定した環境で入居者様が生活することが出来ました。今年度も安定した環境で生活していただけるよう、職員への基本的な感染対策行動や感染症を持ち込まない様に継続的な指導を実施します。また、施設内で感染症が発生した場合はさらに広がる事のないよう早期対応を行っていきます。

褥瘡対策委員会

委員長 堀 貴美

高齢者は低栄養状態や、活動力の低下に伴い寝たきりに陥りやすく、褥瘡が発生する可能性が高くなります。褥瘡予防・早期発見の為、多職種と連携し評価を行い、日常的ケアにおいて、よりよい適切な介護、看護のケアが出来るよう目指していきます。

地域貢献委員会

委員長 駒月 智美

職員による月に一度の施設周辺の清掃活動を継続して行い、地域の環境美化に努めます。自治会行事のお祭り等にも積極的に参加するとともに、健康力フェスわか「第三金曜日開催」の実施や施設へ地域の方をお招きするイベントを実施するなど、地域の皆さまとの交流の機会を増やし結びつきが強くなるよう取り組みます。

和(なごみ) 指針

身体的拘束等対策委員会

委員長

尾花

あかね

身体拘束は入所者様の生活の自由を制限するものであり、尊厳ある生活を阻むものです。入所者様の主体性と意思決定を尊重し、職員一人ひとりが身体拘束を安易に正当化することなく、拘束廃止に向けた意識の向上を図り、身体拘束を行わない支援の実践に努めます。

虐待防止対策委員会

委員長

尾花

あかね

虐待は人権侵害という認識のもと、入所者様の人権を守り、安心安全な生活を確保する為、虐待の早期発見、早期対応に努めます。定期的な職員研修を企画、実施し一職員ではなく組織として風通しの良い職場環境を整え虐待を起ささない体制作りを行っていきます。

事故防止対策委員会

委員長

大岡

尚子

入所者様に安心して快適な生活を送っていただくよう、質の高い支援の提供に努めると共に、安全な環境を提供します。事故が発生した際には、速やかに適切な対応が出来るよう、日頃から職員全員で自己研鑽に取り組んでいきます。また、事故を未然に防ぐために日常的な観察でリスクを早期発見し、具体的な予防策を職員全員で共有・実践していきます。

災害対策委員会

委員長

武藤

朝記

災害発生時の際、迅速かつ適切な対応ができる体制の整備を図ります。平時より避難訓練や初期消火訓練、通報訓練等を定期的を実施するとともに、防災設備や避難経路の点検を行い、職員の防災意識と対応力の向上に努めます。また、災害発生時には速やかな避難誘導と安全確保を行い、被害の最小化に取り組みます。

感染症対策委員会

委員長

竹之内

弘美

施設における感染予防対策の体制を確立し、適切かつ安全で質の高い支援の提供を図ることを目的とします。各研修および訓練を通して、手洗いや排泄物・嘔吐物の適切な処理を徹底するとともに、感染症の発生時には状況に応じたマスクの着用や必要な環境整備を行い、施設内での感染拡大の防止に努めます。

生活上・接遇委員会

委員長

神谷

若子

入所者様が安心して快適に生活できる環境づくりを行います。生活上の困りごとや要望など、入所者様の声を聴きながら、日常の中で気づいた課題を職員間で共有し、生活の質の向上に取り組みます。また、思いやりのある接遇を実施し、入所者様やご家族様に信頼される施設を目指すため、挨拶・言葉遣い・態度などの研修を行い、接遇マナーの向上に努めます。

地域貢献・企画運営委員会

委員長

岸

津由香

地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた施設運営を進めていきます。地域貢献活動として子ども見守り隊や地域清掃活動等の活動に取り組み、地域との交流促進に努めます。また、企画運営として秋祭りなどの季節行事を実施し、利用者様の生活の充実と地域住民との交流の機会づくりを行っていきます。

